

あよも



特定非営利活動法人
熱帯森林保護団体 Rainforest Foundation Japan

〒154-0012 東京都世田谷区駒沢1-8-20
TEL: 03-5481-1912 FAX: 03-5481-1913

MAIL xingu@rainforestjp.com HP www.rainforestjp.com

[ご住所等変更ございましたらご連絡いただけますと幸いです]

HOW TO HELP	年会費	大人	5,000円
		18歳以下	3,000円

年会費・寄付金振込先

口座名	熱帯森林保護団体
ゆうちょ銀行	郵便振替口座 00140-3-144187
三井住友銀行 東京中央支店	普通口座 7066247

※ 銀行振込の方は、必ずお名前とご連絡先を別途、当団体までご一報をお願い致します。

■ 人の在りよう、宇宙の在りよう

長倉 洋海 (写真家)

1995年、インディオの土地確定に大きな役割を果たした指導者アユトン・クレナックと出会い、アマゾン源流部の民族を訪ね歩いた。旅の最初、アユトンが山を指差し、「西側の人はどのくらいの材木がとれ、家が何軒建つかしか考えませんが、私たちは山に生きている動物や昆虫、微生物の命を感じることができます」と話した。その言葉が今も忘れられない。

しかし、人の欲望は限度がない。南アフリカでは、1tあたり4~6gの金を採掘するために地下4000mまで掘り進んでいたし、ウランやシェールガス(海底の化石燃料)の採掘も続いている。「地下にあるものは人が使わないようにと偉大な精霊が隠したものだ」とヤノマミのリーダー、ダビは話していた。

私はその後も、日本のアイヌ、シベリアのトナカイ遊牧民ネネツ、パプアニューギニアと先住民に出会う旅を続けた。今年5月に訪れたサラワク(マレーシア領ボルネオ)では、「大きな木を切ってはいけない、動物をたくさん殺してはいけない」と子孫たちに教えてきた先住民クラビットの思いに反して、製材輸出、そして、オイル・パームの植林が進み、熱帯雨林の40%が消失した。

油ヤシの実を搬出するために作られたまっすぐな道路。その光景はアマゾン縦断道路と重なった。人間は効率のために家、車、PCなど直線や四角なものを作ってきた。しかし、地球の川は蛇行し、大地には高低があり、まっすぐなものはない。「どうしてヤノマミの家は丸いのか」と尋ねる私に、ヤノマミのリーダー、ダビは「地球は丸い。だから私たちの家も丸い」と答えたのだった。

アフガン抵抗運動の指導者マスードも生きる在りようを知っている人だった。ソ連軍の爆撃で木々が燃えても幾度でも植林を始めた。また、復讐を禁じた。暴力の応酬からは何も生まれないことを知っていた。そんな彼は動物の無益な殺生も禁止していた。自分の中の宇宙を感じ、内なる神の声を聞く。それができた時、私たちはこの地球上に生かされ続けることができるのだらう。



お祭りが大好き パヤベくん
アリス館 写真・文 長倉 洋海



アフガニスタン
マスードが命を懸けた国
白水社 写真・文 長倉 洋海

■ 研子さんとの出会い

澤田 志乃 (Estúdio AZUL / RFJスタッフ)

私と南研子さんが出会ったのは、今から4年前の2018年、ブラジルサンパウロでのことでした。その頃、主人の仕事の帯同でブラジルに住んでいた私は、日本人女性の勉強会グループ「ブラジルを知る会」に所属していて、アマゾン視察を終えた研子さんを招いて講演会をお願いしたのです。

実は私、ブラジル歴は長くて合計で13年。南米最大の都市サンパウロ市とブラジル最南部の州都ポルトアレグレ市に住んでいました。二人いる子どもはブラジル生まれ。出産も子育てもブラジルで経験し、13年も住んでいればそこそこ言葉も話せます。ブラジルの生活にも他の日本人に比べると比較的馴染んでいた方だと思います。しかし、恥ずかしながら、そのころの私はアマゾンについてほとんど知識がなく、なんとなく「アマゾンの森が破壊されつつある」ということが頭の片隅にあった程度でした。そんな私だったので、直前までアマゾン森林保護活動をされている研子さんの講演会もあまり気が進まず、勉強会の一つだからと参加したというのが本当のところ。そんな私が今はRFJの会員となり、活動のお手伝いをしているのですから、人生とはわからないものです。

さて、私はキリスト教カトリック教徒です。ご存じの方も多いかと思いますが、ブラジルの開拓とキリスト教には大きな関係があります。大航海時代の後期1500年にポルトガル人によって発見されるまでブラジルは先住民の楽園でした。発見されて以降、ポルトガル人を始めとするヨーロッパ人の侵略により先住民たちは迫害を受ける事になりますが、その時にキリスト教の布教も行われました。先住民たちが土地を追われたことにキリスト教が利用されたことは、悲しい歴史であるでしょう。ですから、キリスト教徒である私が、今こうやって先住民の森を守るお手伝いをする機会をいただいたことには何か大きな意味があり、私の人生の大切な使命であると考えています。

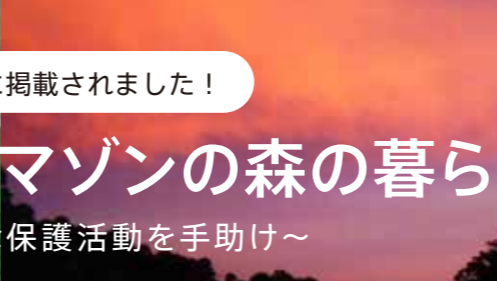
アマゾンに無関心だった私も、カトリック教徒である私も、研子さんとの出会いによって、かつて目を向けられていなかった問題に関心を持つようになりました。アマゾンの広大な森林と共に先住民の住処が失われつつある今、私はそこの人々が安心して住める土地を守る活動に、力強く貢献したいと思っています。

世界中を歩き、沢山の写真とスチキな文章を
伝え続けている長倉さんが4月に2冊の本を
出版しました。是非お手にとって見て下さい。
オールマイティの作業色にはずぶちゃん、いつでも
飛ぶぞきと手伝ってくれる森もいた。感謝です。

ブラジル・アマゾンは今年1,2月に記録的な森林消失

今年1月のブラジル・アマゾンの森林消失面積は昨年同月比4倍以上の430km²と昨年を62%上まっした。1,2月は森林消失が最も少ない時期だが、今年の急増は憂慮すべき兆候でもある。2020年8月から2021年7月までのアマゾンの年間森林減少面積は前年より22%増加し15年間で最大を記録した。

[AP 3月11日]



Yahoo ニュースに掲載されました！

今を大事に生きるアマゾンの森の暮らし

～先住民族の自主的な保護活動を手助け～

森が消え、進む気候変動

南 この2年はブラジルに行けていないんですね。新型コロナで先住民保護区は2020年から昨年12月終わりまで外部から入れないように封鎖されているんです。私は1989年から自然保護とアマゾンの先住民の存続支援ということで34回、通算2千日以上現地に滞在してきました。支援というのはちょっと視察して伝えるということではなく、自分がそこで体験して、それを伝えることが責任だと思っているんです。

今の大統領になってからは経済優先になっているのですね。森があると、どれくらいの金になるか、というような。昨年は日本の本州の10分の1くらいのアマゾンの森が消えました。

海原 アマゾンの森は、木が伐採されて牧場や大豆畑、サトウキビ畑、鉱物採掘場などに変わるんですね。サトウキビを原料とするエタノールを得るため、大豆の殻は鶏のえさにするために、こうした伐採が行われていると聞きました。これにより気候変動が進んでいるわけですね。



熱帯雨林の中をうねるように流れるアマゾン川

南 アマゾンの大豆畑で取れた大豆の殻をえさにした鶏がアメリカ経由で加工食品の原料として日本に輸入されたりしているわけです。実際、私が行った時に、前は森だった所が、「えっ、ここが大豆畑に」ということが何度もあります。

海原 気候の変化を感じられることも多いでしょうね。

南 最近では、温度を測ると昼間は50度くらいです。夜は10度くらいになります。湿度は10%くらいです。乾燥化が急に進んでいます。そんなふうになったのは、ここ5～6年ですね。その前はそんなことはなかったです。前は日陰に行くと、じゅわーとしていたから。地球上の酸素の供給源であるアマゾンの森が消えているということです。これは地球規模の問題ですね。

これにより火災が起こりやすくなり、一度火が付くと手が付けられなくなります。火が燃えて、またCO₂が発生します。日本と2万キロ離れているから関係ないと思いがちですが、関係が深いのです。次世代にとって大きな問題ですね。いずれ酸素を買うような時代になるかもしれないとったりしています。



アマゾン川流域では開発が進んでいる

「うつ」も「寝たきり」もない暮らし方

海原 そこで暮らす人は大変ですね。適応するのが。

南 たくましいです。

海原 以前、南さんが大学の講義で自然保護とアマゾンについてお話しされた時、「アマゾンには、うつもがんも心臓病も寝たきりも自殺もないですよ」とおっしゃったのが強く印象に残っています。

南 それは今も同じですよ。ただ、最近では町に行って町の食べ物を食べる人に変化が出てきています。食べる物は大事ですね。もともとは自給自足していたわけですが、最近では状況も変わり、外からの食べ物が入ります。でも寝たきりはないし、だからと言って早く死んでいるわけではないです。ラオーニさんは、もう100歳近くになると思いますが元気ですね。それは多分、年を数えるということがないからかもしれないと思っています。

海原 なるほど。数を数えるとそれに縛られますよね。

南 数字というのは管理ですね。管理しやすい。幾つになったら学校に行くとか、幾つだからこうしようとか。年に縛られて老けていくということがあります。潜在意識になる。あとは、リタイアがないんです。幾つになっても役割があるんです。文字がないので、みんな自分の脳に記憶しないとけないんですね。

海原 役割や自分が社会参加することで寝たきりにならないんでしょうね。

南 あとは緊張感ですね。ボケてる暇がないですね。夜、外のトイレに行く時、「気を付けて行けよ。ヒョウに襲われないように」とか。(笑)

海原 それは怖いですね。緊張を超えて怖くて眠れなくなりそう。



乾燥化が進み、火災が起こりやすくなった

押し付けではない支援の形

南 あとは、子どもを私物化していないですね。個の確立がされていて、10歳くらいの子が小さな子どもに教えたりするんです。大人になるための通過儀礼もあります。男の子は13、14歳くらいの時、呪術師が作った毒性の強い飲み物を飲みます。女の子は初潮があると1年間、昼間は1人で部屋に閉じこもり、自分と向き合う時間を作るわけです。それを通過したものが大人というわけです。

海原 それは命を落とすこともあるでしょうね。親は手助けできないんですか？

南 男の子はそこで死ぬことがあります。女の子は、食事を外から差し入れするんですね。ただ、それ以外は何もできないです。でもこうした通過儀礼を通ると、みんな顔が変わります。過酷な中で生きて行くための個が確立されたという感じですね。

海原 成人になるための通過儀礼は厳しいですね。でもそれを通過したことで生きて行く自覚が生まれるのでしょうか。しかし南さんのアマゾン支援、すごいエネルギーだなあと感嘆します。言葉も通じず、トイレもお風呂もない中で2千日過ごすとは。先住民族の方たちとの生活を本で読ませていただくと、「本当にすごいなあ」と何度もつぶやいています。



採取したはちみつを持つ養蜂士

南 特別に自分ですごいとは思わないのですが、自然に縁を大事にしながらやってきました。こちらの価値観を押し付けるのではなく、自分たちが自主的にしたいということを手助けするのが支援だと思っています。今、二つのプロジェクトがあります。一つは火事が大きくなるのを防ぐために地元の若者たちが消防団を作って頑張っていることへの支援。もう一つは、いずれ貨幣制度が入ってきた時に大きな企業に土地を買い占められたいりしないように、はちみつを作り始めました。

海原 はちみつ、すてきですね。

南 ここには、ここにしか生えていない植物があるんです。その植物から取れるはちみつを流通させることを計画しています。

取材後記

以前、南さんにお会いした時、「アマゾンでは、一日が小さな一生なんですよ」とおっしゃったのが心に残っています。

日が昇ると始まり、日が沈むと終わる、この一日、この一日を大事に過ごすことの積み重ねが人生。あす何があるか分からない。でも今生きているこの命を大事にして、今を大事に生きる。これが過酷な自然を生きてアマゾンのおきてなのだと思います。そしてそれは私たちも同じなのに、それに気が付いていないだけなのでしょう。

聞き手・文 海原 純子 (日本の医学者・医師、随筆家、歌手。)



※文章はDr.純子のメディカルサロンから引用しています。「あぱっさ」34号2022年7月発行